

## 当番団体として

(社) 日本病院薬剤師会臨床試験対策委員会 神谷 晃  
(山口大学病院臨床試験支援センター長)

この会議のタイトルには、「CRCが自らのあり方を自ら考える」という願いが込められています。学会のようにピラミッド型の組織ができあがっていて、ピラミッドの頂上付近の人達が考えた方向を目指すのではなく、臨床試験に係わるみんなが知恵を出し合って、新しい方向を作り出してゆこうという会です。特にCRCが一人前になるまでの間は、みんなで支え合いながら進もうとして始まった会です。「問題は現場で起こっている」ことを忘れず、その解決に取り組もうとしたわけです。

今回の企画は、日本でCRC養成が始まって10年を経過したこともあり、原点に戻り、CRCが主役となる会にしたいということからスタートしました。プログラム委員会は現場で活躍している人達を中心に構成しました。そのため、各団体から推薦していただく委員についても、依頼段階から注文を付けさせてもらいました。その代わりに、企画内容の全てをプログラム委員会に委たわけです。会議代表の金沢大学病院・古川先生が特に企画したものは、なかなか組織だった活動ができなかったSMO所属のCRCのための企画を入れたくらいです。

ここからは、半分冗談の入ったうら話です。会議代表は裏方(事務局)に徹し、プログラム委員会がやりやすいように動き、古川代表は会が始まったら接待係に徹していました。それだけでは古川代表があまりにもかわいそうなので、懇親会では好きなだけ演奏させてあげることになりました。古川代表の発案で、懇親会は多くの参加者を得るため、できるだけ安価で行うことにしました。また、バンドの生演奏以外に特に出し物は用意せず、自由に歓談してもらおうという企画です。古川先生の所属するバンドプラス2名での即席のバンドですが大いに楽しむことができました。

しかし、私の想定外の出来事は、懇親会に進行表はなく、全て司会者任せであったことです。さすが古川代表のことだけあって、全てがアバウトで司会者のサポートが必要であったことです。私としては、司会者を古川代表に紹介し、司会者の台本作りを手伝い、司会者にチャイナドレスを着ることを提案した(司会者はそのためにドレスを新調しました)てまえ、その場で企画を考え、実行することになったことです。オープニングで日本医師会治験促進センターの「ちけんくん」に登場してもらったり、金沢大学病院長の挨拶を入れたり、ハプニングの連続でした。しかし楽しい会ができました。



地方の開催にもかかわらず、2,200名を超える参加者が集い、CRCと臨床試験のあり方を一緒に考えることができたすばらしい会になったと思います。古川代表およびプログラム委員会の皆様に改めて感謝申し上げます。